

## 令和7年度 学びの丘 上新田学園 学校評価書

種別	No.	評価指標	学校としての取組	保護者(小)	保護者(中)	教職員	平均	学校運営協議会	学校運営協議会委員の意見
確かな学力の向上	1	学校は、上新田スタンダード(返事・姿勢・学びに向かう姿など)を定着させ、分かりやすい授業を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学部3年生・小学部6年生の全国学力・学習状況調査(国語、算数、理科)の結果を分析すると、「知識及び技能」において、全国及び県平均を大きく上回る結果が見られた。「記述式」問題への対応力を高める必要がある。</li> <li>○ 上新田スタンダードの定着に向けて、通級指導や個別指導、習熟度別少人数指導を深め、一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導を継続して行っている。</li> <li>○ 今年度もICT活用推進を積極的に行い、教員のICT活動指導力の向上を図ることができた。</li> </ul>	3.58	3.67	3.25	R6 3.51	3.78	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタルとアナログそれぞれのよさが生かされている。漢字をノートに書いたり辞典をひいたりするような活動も大切にしたいと思う。どの学年においてもICTを活用した授業が行われ、一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導が学力向上につながっている。</li> </ul>
	2	教職員は、一人ひとりの理解度に応じた、きめ細かい見届けの指導を行っている。		3.47	3.43	3.32	R7 3.49↓		
	3	教職員は、ICT(パソコンやタブレット、大型テレビなど)を活用して、様々な学びに対応する授業を実施している。		3.62	3.73	3.32			
小中一貫教育の推進	4	学校は、小中一貫教育校のよさを生かして、一部教科担任制(中学部教員が小学部にて授業を行うなど)の授業を工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学部の教員が、専門性の高い乗り入れ授業(外国語、音楽、図工)を小学部でも実施し、小中一貫教育の強みを生かすことができています。</li> <li>○ 定期テストを初めて受ける1年生に対して、中学部3年生が授業の受け方や家庭学習の仕方についてアドバイスを行う座談会や小学部の児童への読み聞かせなどを行うことができた。</li> <li>○ 児童生徒会を中心に、体育大会や人権集会、読み聞かせなど様々な行事で小中の交流を深めている。思いやりや責任感、公共心や道徳心など、上学年の姿がお手本となっている。</li> </ul>	3.72	3.80	3.46	R6 3.62	3.72	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「あこがれ」という感覚ではなく、小学部・中学部の学年に関係なく仲がいいのだと思う。今年度も音楽発表会や持久走大会、立志式など子どもたちの成長した姿を見ることができた。互いに励まし合いながら応援する姿はすばらしい。</li> </ul>
	5	学校は、小中一貫教育校のよさを生かして、教え合いや学び合い(読み聞かせ・児童生徒会)を行っている。		3.75	3.82	3.50	R7 3.56↓		
	6	子どもたちは、自分より上の学年の児童生徒にあこがれをもっている。		3.37	3.33	3.25			
特別支援教育・生徒指導	7	学校は、いじめ・不登校などの諸問題の未然防止や早期発見を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒理解研修を年3回、学期初めに設定し、家庭状況や気になることなどについて、職員間の共通理解を図った。しかし、今年度も保護者の評価においては低い数値が出ているため、今後ともさらに家庭との連携を深め、学校に対する信頼を高めていきたい。</li> <li>○ 学校保健委員会や家庭教育学級などで、「熱中症予防」や「親子でクッキング」など日々の生活に直結するようなテーマに取り組むことができた。</li> </ul>	3.22	3.25	3.50	R6 3.42	2.93	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめ・不登校の対応について、保護者と教職員の意識に差がある。「いじめ」に対する考えの違いはないかと思う。学校が把握していないことは、保護者が関係職員に積極的に相談し、未然に防止したり解決したりしていく必要がある。</li> </ul>
	8	学校は、個に応じた指導を組織的にしている。(個別の教育支援計画の作成・指導体制の確立・就学指導委員会の実施)		3.44	3.41	3.36	R7 3.37↓		
	9	学校は、地域とともに多様性を理解し、受容するための講演・研修を企画している。		3.54	3.61	2.96			
学校安全の徹底	10	教職員は、校内施設の安全点検を行い、危険箇所の把握を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員による毎月1回の安全点検と学期末の点検巡回を徹底することができた。</li> <li>○ 地域の方々の協力をいただきながら朝の登校時の見守り活動や不審者対策を行うことができた。不審者情報の提供など警察とも連携することができた。</li> <li>○ 日々の文書連絡だけでなく、不審者情報や危険箇所の連絡、台風時の学校の対応など「sigfy」で緊急連絡体制の確立を進めることができた。</li> </ul>	3.63	3.55	3.68	R6 3.70	3.72	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の方々の協力だけでなくPTAも積極的に関わっていくことで、学校と保護者、地域が密に連携し、子どもたちの安全を守ることができると思う。今後も「sigfy」の活用を継続し緊急連絡体制をさらに構築してほしい。</li> </ul>
	11	学校は、地域見守り隊と協力して、交通安全や不審者対策を行っている。		3.81	3.76	3.50	R7 3.71↑		
	12	学校は、保護者連絡アプリ「sigfy」を使って、緊急連絡体制を構築し活用している。		3.85	3.78	3.79			
読書のまちしんどの推進	13	学校は、校内に読書環境を整備し、本好きな児童生徒を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館内の環境整備や新刊の紹介、新聞や情報誌の掲示、本の貸出の管理など、図書支援員が中心になって行っている。月ごとに変わる図書館掲示を児童生徒は楽しみにしている。</li> <li>○ 朝の読み聞かせは、毎月ボランティア団体赤ずきんさんや各学級の読み聞かせ委員の方々に尽力いただいている。</li> <li>○ 今年度は、お昼の読み聞かせも行い、児童生徒が本と触れ合う機会を増やすことができた。</li> </ul>	3.65	3.57	3.39	R6 3.67	3.94	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学部の生徒が小学部の児童に読み聞かせをするなど、小中一貫教育校ならではの取組が生かされ、本好きな児童生徒を育成していると思う。昼休みの読み聞かせボランティアは、来年度も継続してほしい。</li> </ul>
	14	学校は、「読み聞かせボランティア」による読み聞かせを積極的・計画的に実施し、児童生徒が本に親しめる環境をつくっている。		3.81	3.73	3.71	R7 3.68↑		
	15	学校は、学校図書館を整備し、児童生徒が本を読み借りできる環境を整備している。		3.78	3.80	3.68			
子ども	16	子どもは、楽しく学校に通っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な行事を通して、小中一貫教育校ならではの活動を行うことができています。今後も学校は楽しい、勉強が楽しい、授業がわかったと思える環境づくりに努めていきたい。</li> <li>○ あいさつについては、一斉下校指導やあいさつ運動を通して賞賛の場を多く設けてきた。さらに「進んであいさつ」「気持ちのこもったあいさつ」ができる児童生徒を育成していきたい。</li> </ul>	3.53	3.65	3.39	R6 3.49	3.39	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あいさつがしっかりできるようになっているが、中には恥じらいなのか気付かないのか、あいさつをしない子どもたちもいる。子どもたちの安全を守るために、朝早くから見守ってくださっている方々に敬意を表す意味でも、大きな声で心のこもったあいさつをしてほしい。</li> </ul>
	17	子どもは、思いやりの心やルールを守る態度、協調性などが育っている。		3.56	3.65	3.25	R7 3.44↓		
	18	子どもは、あいさつや時間を守るなど基本的な生活習慣が身に付いている。		3.42	3.55	3.00			
保護者	19	学校や学級、「sigfy」から配信される文書などを読むようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校だより「座論梅」や学級通信、行事等の案内文書も紙媒体を廃止し、「sigfy」で一本化を図ることができた。「sigfy」の活用も4年目となり、地域や保護者の方々との連絡手段として理解を得ることができている。</li> <li>○ 今後も地域や保護者の方々が、学校に気兼ねなく相談できる温かい雰囲気醸成していきたい。</li> </ul>	3.78	3.65		R6 3.55		
	20	子どもの様子について、気になる時には関係教職員に知らせている。		3.49	3.47		R7 3.58↑		
	21	学校の様子について子どもと話をしている。		3.63	3.47				

(その他) ※ 茶摘みや梅ちぎり体験、湯の宮棒踊りや新田神楽、毛筆指導、学校の環境整備など地域の方々の協力をいただきながら、地域に根ざした教育活動を展開することができている。